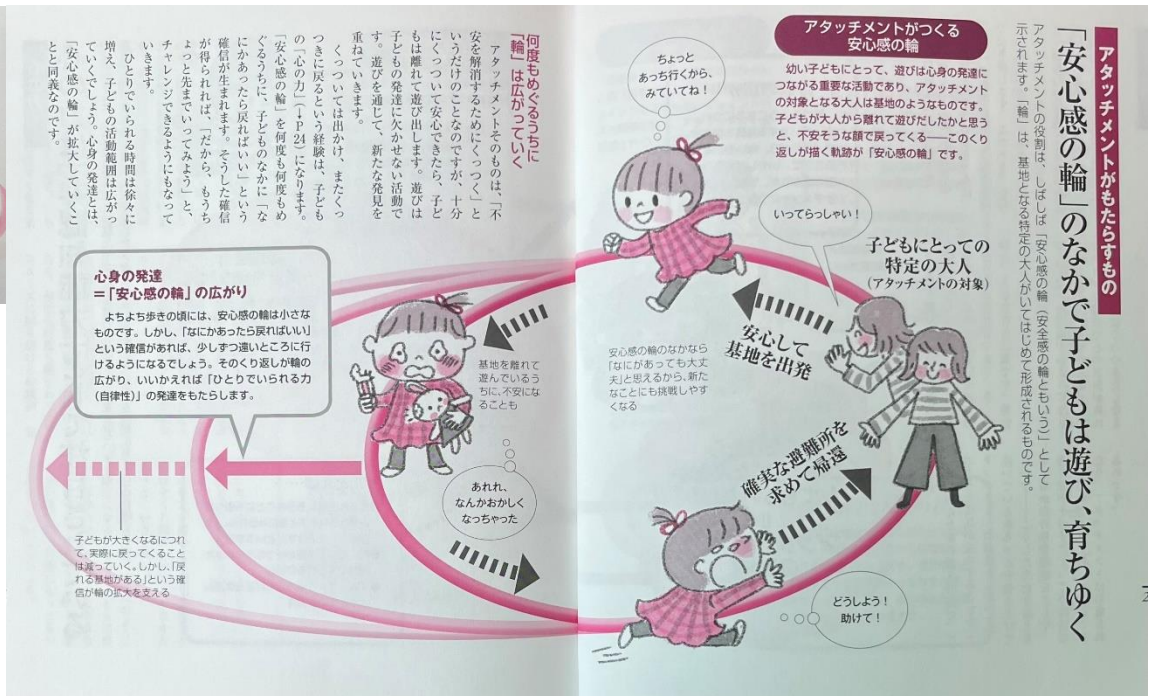
6月 えんだより

令和５年６月１日
中道山こども園
園長　五十嵐雅樹



アタッチメントがもたらすもの

「安心感の輪」のなかで子どもは遊び、育ちゆく

アタッチメントの役割は、しばしば「安心感の輪（安全感の輪ともいう）」として示されます。「輪」は、基地となる特定の大人がいてはじめて形成されるものです。

アタッチメントがつくる安心感の輪

幼い子どもにとって、遊びは心身の発達につながる重要な活動であり、アタッチメントの対象となる大人は基地のようなものです。子どもが大人から離れて遊びだしたかと思うと、不安そうな顔で戻ってくる――このくり返しが描く軌跡が「安心感の輪」です。

何度もめぐるうちに「輪」は広がっていく

アタッチメントそのものは、「不安を解消するためにくっつく」というだけのことなのですが、十分にくっついて安心できたら、子どもは離れて遊び出します。遊びは子どもの発達に欠かせない活動です。遊びを通じて、新たな発見を重ねていきます。

くっついては出かけ、またくっつきに戻るという経験は、子どもの「心の力」（→P24）になります。「安心感の輪」を何度も何度もめぐるうちに、子どものなかに「なにかあったら戻ればいい」という確信が生まれます。そうした確信が得られれば、「だから、もうちょっと先までいってみよう」と、チャレンジできるようにもなっていきます。

ひとりでいられる時間は徐々に増え、子どもの活動範囲は広がっていくでしょう。心身の発達とは、「安心感の輪」が拡大していくことと同義なのです。

心身の発達＝「安心感の輪」の広がり

よちよち歩きの頃には、安心感の輪は小さなものです。しかし、「なにかあったら戻ればいい」という確信があれば、少しずつ遠いところに行けるようになるでしょう。そのくり返しが輪の広がり、いいかえれば「ひとりでいられる力（自律性）」の発達をもたらします。

子どもが大きくなるにつれて、実際に戻ってくることは減っていく。しかし、「戻れる基地がある」という確信が輪の拡大を支える

右は、上記本の22・23項から。上のサインは、この本の著者東京大学大学院教育学研究科教授遠藤利彦先生直筆。

HPではカラー➡

アタッチメント

乳幼児期の最も大事なものは、アタッチメントです。これが、人間としての土台を築きます。逆にこれが欠けていると、将来どんな人間になっているか分かりません。これがあって初めて

①読み書きそろばんができる

②自分に自信をもって、他人との関係を築き、社会性を身に着けることができます。特に今、②が大事だと言われます。何故なら②があると①を自ら身に着けていけるからです。②は非認知能力と言います（①は認知能力）。

すなわちアタッチメント→非認知能力→認知能力の順です。

ただ、アタッチメントは、愛情ではありません。スキンシップでもありません。日本語では「愛着」と訳されますが、親や保育者と子どもの望ましい関係を言います。

では、具体的にどんな関係を築くか。それは、子どもにとっての「心の安全基地」となる事です。

何かあった時子どもを無条件で受け入れる。ただそれだけではダメです。決して指示や叱責はせず、子どもの背中を押すことです。子どもの応援団となる事こそアタッチメントです。

６月の行事予定

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木
尿検査（二次）		以上児誕生会				作品展・バザー	布団持ち帰り				食育の日 未満児誕生会			避難訓練			サッカー教室				和太鼓教室 布団持ち帰り				水あそび開き				英語教室 尿検査提出日

✿７月の行事予定… ３日（月）～７日（金）ゆりぐみ個人懇談、６日英語教室、７日（金）布団持ち帰り
１１日（火）サッカー教室、１９日（水）未満児誕生会
２１日（金）不審者訓練・布団持ち帰り、２６日（水）以上児誕生会